

平成 31 年（令和元年）度枚方市立山田中学校 学校評価報告書

1. 学校教育目標

○校訓 探求 友愛 剛健 ○未来をきりひらく、たくましい人間の育成 【めざす学校像】 力のある学校	○スローガン『ともに歩もう・ともに学ぼう ひとすじの道』 ・真理を探求する人間 ・情操豊かな人間 ・心身共に健康な人間 ・公共に尽くす人間 【めざす生徒像】 夢や志をもち、チャレンジ精神にあふれる生徒	【めざす教職員像】 力量のある教職員
---	---	--------------------

2. 学校経営方針

○『チーム YAMADA で一人ひとりを大切に』 生きる力の育成を図るため、一人ひとりの人権意識の確立と自ら学ぶ意欲の育成を図るとともに、確かな学力の定着を図る取組みを積極的に進める。 さらに、創意工夫を生かした特色ある学校づくり、地域に開かれた学校づくり、信頼される学校づくりを推進し、「力のある学校」をめざす。

3. 育てたい人間像（これからの時代に必要とされる人間像）

・情報を収集し、自ら考え、行動できる人 ・高い知識と技術を保有する人	・創造力のある人 ・外国人と正対できる人～語学力と心の強さと柔軟さ～	・諦めない粘り強い人 ・他人や多民族との協調性及び思いやりの心を強く持った人	・心の強い、生きる力を十分持った人	・AI を開発運用制御する倫理観の高い人
---------------------------------------	---------------------------------------	---	-------------------	----------------------

4. 今、学校で育成すべき力

・問題解決能力と創造力及び粘り強さ ・情報に対する正しい理解及び判断力	・高い人権意識と協調性、思いやりの心 ・創造力及び企画力	・コミュニケーション能力及び英会話力 ・生きる力（生き抜く心の強さ）	・理科 数学 技術の好きな生徒 ・地域社会の一員としての自覚の醸成
--	---------------------------------	---------------------------------------	--------------------------------------

5. 本年度の取組内容及び自己評価

基本 方策	項 目	・本年度の重点目標	○具体的な取組内容（◆成果指標）	□自己評価 ⇒目標数値は H30 年度実績を踏まえて設定 () は H30 実績
確 かな 学 び と 自 立 の 力 を 育 む 教 育 の 充 実	組 織 運 営 ・ 教 育 課 程 ・ 学 習 指 導 ・ 進 路 指 導	【気持ちのそろう教職員集団】 1. チーム力を引き出すリーダーシップ 2. 信頼にもとづくチームワーク 3. 学びあい、ともに育つ同僚性 【戦略的で柔軟な学校運営】 1. ビジョンと目標の共有 2. 柔軟で機動性にとんだ組織力 【すべての子どもの学びを支える学習指導】 1. 主体的・対話的で深い学びがある授業づくり 2. 基礎学力定着や自学自習力の育成のためのシステムづくり 3. 授業規律の確立	【学習指導】 ①思考力、判断力、表現力等を育成し、主体的に学習に取り組む姿勢を育む授業改善を図る。 ②「授業づくりスタンダード」を踏まえた授業のあり方を実践する。特に、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業スタイルを研究実践する。 ③生徒一人ひとりの個性を尊重しつつ「基礎的・基本的学力」を培い、「学ぶこと、生きること」について自ら進んで考え、目標を設定し、自己実現を図ることができる能力や態度を身につけさせる。 ④家庭学習をはじめ自学自習力の定着に向け、宿題を中心とした学習課題や自主学習ノートの活用等の研究・実践をすすめ、自学自習力の向上に向けた取組みを行う。その際には、学校だけでなく家庭・地域への働きかけを積極的に行う。 ⑤全国学力・学習状況調査や定期的な学習や生活に関する調査等の結果を分析・活用し、授業・教材研究を進め、研究授業による校内研修を実施し、指導方法の創意工夫・改善を図る。 ⑥少人数習熟度別指導や複数の教員による授業の実践を通じて、指導方法の工夫改善を進め、個に応じたきめ細かな指導の充実を図る。 ⑦ICT 機器の整備等、学習環境整備をすすめ、生徒に情報活用能力を培うための学習活動の充実を図る。 ⑧学校司書と連携し、学校図書館の効果的な活用を図るとともに校区での読書活動を推進する。 【進路指導】 ①進路指導主事を中心とした校内進路指導体制を確立するとともに、生徒・保護者から信頼される進路指導を行う。 ②主体的に学習に取組み「卒業までに確かな学力と自ら学ぶ力」を育て、自らの目的をもって進路を選択できる力の育成を図るため、体験学習の機会を増やすなど、総合的な学習の時間を活用してキャリア教育の充実を努める。 ③高等学校等の特色や選抜方法、奨学金制度等についての情報や資料の収集に努めるとともに、生徒・保護者への積極的な提供を行う。 ④生徒一人ひとりの考え方、生き方等を大切に、生徒が主体的に進路選択が出来るよう、人権に十分配慮した適切な指導を行う。 ⑤評価については進路用資料に活用されることを踏まえ、評価システムの検証を常に行うとともに、生徒・保護者にきちんと説明責任を果たせるものにする。 【教育課程】 ①学習指導要領に即した適正な教育課程を編成するとともに、指導要領に示された内容を適切に指導する。また、新学習指導要領の趣旨や内容等を十分理解し、円滑な実施に向けて準備を行う。 ②特別活動、総合的な学習の時間については、そのねらいをしっかりと定め、目標・全体計画、年間指導計画等の作成や指導方法の工夫改善に取り組み、本校独自の特色ある系統的なカリキュラムの作成を行う。 【学校教育自己診断 生徒調査】 ⇒肯定的回答の割合 ◆授業がよくわかる ◆落ち着いた雰囲気の中で授業を受けることができる ◆チャイム着席を実行している ◆朝の学習や朝の読書は役立っている 【平成 31 年度全国学力・学習状況調査 質問紙調査】 ◆家庭学習を全くしない	【学習指導】 □基本的に 4 人のグループによる学習活動を取り入れた授業を行い、主体的に授業に取り組む姿勢を育てるとともに、思考力・判断力・表現力を高める題材を課題とした研究授業を行った。 □「主体的・対話的で深い学び」に資する授業スタイルの確立や使用教材等の研究を教科部会、学年別授業研究や講師を招聘しての公開研究授業等を行った。 □課題別プリント等を活用し、生徒個々が自ら考え、計画して取組、学習を進められるように図った。 □各教科で宿題をだし、一定の家庭学習の材料を提供するとともに、自主学習ノートを活用して家庭での自主学習を促進した。保護者にも協力を求めた。しかし、家庭学習の定着向上を図ることができず、大きな課題を残した。 □全国学力学習状況調査の調査結果や学期ごとの生徒アンケート、年 2 回の授業アンケート、学校教育自己診断等々を学力向上委員会でも分析し、その結果を教職員で共有するとともに、教科部会等で活用し、指導方法の改善を図った。 □少人数指導において、習熟度別・均等割り・TT の携帯の指導を行い、習熟度別に重点を置いた取り組みを行ったが、2 学期後半以降は事情により英語科は TT の形態を中心とせざるを得なかった。 □ICT 機器の授業での活用は進んでおり、生徒の 90% は ICT 機器を使った授業はわかりやすいと学校教育自己診断でも回答している。しかし、学校保有の PC の台数が不足している。次年度以降で一人に 1 台のタブレットが導入されるのを待つしかない状況である。 □朝読活動等は実施しているが、図書館の利用はよくない状況である。(学校教育自己診断で「図書室をよく利用している」の肯定回答は 28%) ビブリオバトル等の取組を進め、利用率向上を目指す必要がある。 【進路指導】 □進路指導主事の迅速かつ正確な働きと進路部の協力体制により、生徒への進路情報の提供や進路相談体制など充実した進路指導が行えた。(学校教育自己診断「進路に関して、家庭への連絡や適切な情報提供を行っている」の保護者の肯定的回答 80%) □職業講話・職場体験・保育体験等の実践的体験学習に加え、ハローワークの方を講師に招いた職業選択等に関する講話などを実施するとともに、進路選択に係る教育相談等のキャリア教育の充実を図った。 □各学年において保護者集会で進路に関する情報提供を行った。また 3 年生においては進路通信の充実を図り複雑化する入試制度等について詳しく説明するとともに、奨学金制度等についても丁寧に情報提供を行った。 □保護者集会に出席できない方や懇談等への参加が困難な方への情報提供や進路相談の持ち方が課題である。 □生徒が主体的に進路先等を選択できるように相談体制に柔軟性を持たせた。 □評価に関して、教科部会でも常に論議し、公平性を保つとともに、複数の目によるチェック体制等、きちんと説明責任を果たせるよう努めた。 【教育課程】 □国事等により授業日数は少なかったが、指導要領に示された教育課程を編成し、例年ほどの余裕はなかったが問題なく実施できた。また、新学習指導要領が次々年度から始まることを踏まえての内容理解等、準備も進めた。評価規準等については、次年度に実施する。 □年度当初の予定通り進めることができた。しかし総合学習は、生徒の主体性を高めるうえで最も重要な教科であることから、さらに研究を積み、地域との協働を図るなど、課題を見つけ改善を進める必要がある。 【学校教育自己診断 生徒調査】 ※数値は肯定的回答の割合 ◆授業がよくわかる 目標：75%以上 (H30：63%) ⇒結果：71% ▼4% (昨年度比：△8%) ◆落ち着いた雰囲気の中で授業を受けることができる 目標：55%以上 (H30：41%) ⇒結果：50% ▼4% (昨年度比：△9%) ◆チャイム着席を実行している 目標：90%以上 (H30：81%) ⇒結果：89% ▼1% (昨年度比：△8%) ◆朝の学習や朝の読書は役立っている 目標：70%以上 (H30：58%) ⇒結果：70% ±0% (昨年度比：△12%) 【平成 31 年度全国学力・学習状況調査 質問紙調査】 ◆家庭学習を全くしない ※数値は「全くしない」と回答した生徒の割合 目標：10%以下 (H30：12%) ⇒結果：13% ▼3% (昨年度比：▼1%)

			<p>【生徒アンケート 2 月分[3 学年平均]】</p> <p>◆普段の授業では自分の考えを発表する機会が与えられていると思う</p> <p>◆普段の授業では生徒の間で話し合う活動をよくおこなっていると思う。</p> <p>◆家で計画を立てて勉強している。</p> <p>◆家で学校の予習をしていますか。</p> <p>◆家で学校の復習をしていますか。</p> <p>【学校教育自己診断 保護者調査】</p> <p>◆先生はわかりやすい授業に努力している</p>	<p>【生徒アンケート 2 月分[3 学年平均]】 ※数値は肯定的回答の割合</p> <p>◆普段の授業では自分の考えを発表する機会が与えられていると思う 目標：90%以上 (H30：80%) ⇒結果： % (昨年度比： %)</p> <p>◆普段の授業では生徒の間で話し合う活動をよくおこなっていると思う。 目標：95%以上 (H30：88%) ⇒結果： % (昨年度比： %)</p> <p>◆家で計画を立てて勉強している。 目標：65%以上 (H30：59%) ⇒結果： % (昨年度比： %)</p> <p>◆家で学校の予習をしていますか。 目標：35%以上 (H30：29%) ⇒結果： % (昨年度比： %)</p> <p>◆家で学校の復習をしていますか。 目標：50%以上 (H30：44%) ⇒結果： % (昨年度比： %)</p> <p>【学校教育自己診断 保護者調査】⇒肯定的回答の割合</p> <p>◆先生はわかりやすい授業に努力している 目標：80%以上 (H30：70%) ⇒結果：80% ±0% (昨年度比：△10%)</p>
豊かな心と健やかな体を育む教育の充実	道徳教育・人権教育・健康教育	<p>【安心して学べる学校環境】</p> <p>1. 安全で規律ある雰囲気 (学校・学年・学級)</p> <p>2. 学ぶ意欲を引き出す教室環境</p> <p>3. ホット安心できる居場所のある学校</p>	<p>【道徳教育】</p> <p>①「特別の教科 道徳」として、重点目標・全体計画、年間指導計画に沿って、計画的に授業を進めるとともに、道徳的な資質・能力を培うための指導方法の工夫改善に取り組む。</p> <p>②質の高い評価の在り方について研究する。</p> <p>③道徳教育推進教師が中心となり、新たな教材開発や収集及び評価についての研究を進める。</p> <p>④各教科・特別活動・総合的な学習の時間と道徳との関連を踏まえながら取り組みを進める。</p> <p>⑤文部科学省「わたしたちの道徳」及び府教育委員会配付『大切なことろ』を見つめ直して～『ことろの再生』府民運動～を積極的に活用する。</p> <p>⑥指導にあたっては担任のみならず学校全体として取り組んでいく。</p> <p>⑦道徳の授業を中心に学校や地域での生活全般を通じて、「考え、協議し、決断し、実行する」という姿勢を養う。</p> <p>【人権教育】</p> <p>①枚方市「人権教育基本方針」を踏まえ、人権教育を学校の中心に位置づけ校内体制においても人権教育担当教員が中心となって組織的な取り組みの推進を図る。</p> <p>②校区共通の人権教育に係る研究テーマ『一人ひとりが大切にされ、つながり・学び合い、確かな力を育む学びの創造』の深化をめざす取り組みを積極的に行い、校区で策定した「集団づくりスタンダード」「授業づくりスタンダード」をもとに、心のふれあいが大切にされた、規律ある学級集団・学年集団を育成する。</p> <p>③身近な人権課題を解決することから豊かな人権意識の確立をめざすとともに、知識の理解に留まることなく豊かな感性を育み、行動できる生徒の育成を図る。そのため、教職員一人ひとりが豊かな人権意識・感覚をもって教育活動を展開し、様々な場面において啓発を図る。</p> <p>④障害者への正しい理解と認識を深めるため、障がい者理解教育を系統的に実施し、生徒の人権意識の高揚を図る。</p> <p>⑤多文化共生と在日外国人教育・帰国渡日生徒の教育等、国際理解教育の推進を図る</p> <p>⑥様々な体験活動を通じて、福祉に関する理解や豊かな心情を育む福祉教育の推進を図る。</p> <p>⑦男女平等教育の推進のために、男女共生の視点に立ち、男女が協力しあう態度を育てる。</p> <p>⑧セクシュアル・ハラスメントについての理解を深め、その発生を防止するための環境を整え、相談窓口の機能の充実を図る。</p> <p>⑨様々な人権上の課題について校内研修を行っていく。</p>	<p>【道徳教育】</p> <p>□年間指導計画に沿った授業を進められた。また教材研究等も継続して実施した。</p> <p>□夏季研修では評価に関する研修を実施し、評価が公平にわかりやすいものとなるよう取り組んだ。</p> <p>□道徳推進教師が推進役となって分掌部会や学年会を牽引し、教材研究や評価方法について研究を進めた。</p> <p>□学校全体の教育活動と道徳教育との関連を一覧にまとめ、関連項目を意識しながら取り組を進めるよう心掛けた。</p> <p>□「わたしたちの道徳」「大切なことろ」の教材、学校が使用している副読本教材、ライフスキル教材等を幅広く活用しながら取り組めた。</p> <p>□授業は、学級担任だけでなく副担任も担任と交代で授業を実施し、学校全体で道徳の授業に取り組んだ。</p> <p>□地域社会で生きる中での道徳心や自身で「考え、協議、決断、実行、協働」という姿勢を学校生活の全般で身につけられるよう取り組を進めた。</p> <p>□土曜授業や府の道徳教育研究会の近畿大会とタイアップした全教員の道徳の公開研究授業を実施した。</p> <p>【人権教育】</p> <p>□人権教育を学校教育の中心に据え、人権教育担当教員を中心に、道徳だけでなくすべての教科、学級活動、生徒会活動、部活動、学校行事全般を通じて、人権教育が幅広く厚く実施できるよう計画し、実施した。</p> <p>□校区共通のテーマを念頭に置き、山田中学校区の人権教育全体指導計画を作成し、9年間の取組として、一人ひとりを大切にしたい学級や学年の集団づくりを進めた。</p> <p>□4月当初に学校一斉に障害者理解についての時間を設定するなど、配慮を要する生徒への理解を進めた。</p> <p>□全校生徒対象にLGBTに関する外部講師を招聘しての講演会を実施し、性的マイノリティに関する知識を高め、偏見や差別のないよう取り組んだ。</p> <p>□学級活動や学年活動をはじめ、学校教育全般においてインクルーシブの理念で教育活動を進めた。</p> <p>□道徳・総合とも深く関連付け、ライフスキル教育とも並行しながら、生徒の人権意識の向上、豊かなことろの育成を図った。</p> <p>□職場体験、保育実習棟の体験学習とその後の取組により、障がい者理解教育、福祉教育等を推進し、主体的に人権に関する課題に取り組む姿勢を養った。</p> <p>□人権に関する校内研修を実施した。</p> <p>□セクハラに関しての窓口について周知した。</p>
教職員の資質と指導力の向上	研修	<p>【すべての子どもを支える研修】</p> <p>1. 主体的・対話的で深い学びがある授業づくり</p> <p>2. 基礎学力定着や自学自習力の育成のためのシステムづくり</p>	<p>【研修】</p> <p>①校区にて策定した「集団づくりスタンダード」「授業づくりスタンダード」に基づき、授業・教材研究を進め、研究授業による校内研修を実施し、指導方法の創意工夫・改善を図る。</p> <p>②新学習指導要領の趣旨や内容等の十分な理解を図る研究・研修を実施する。</p> <p>③OJTでの授業研修を定期的実施し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業研究を行う。</p> <p>④府や市の実施する研修への受講を推進するとともに、先進校や研究指定校の視察を行い、その研究成果等を積極的に活用する。</p> <p>⑤ユニバーサルデザインに配慮した授業研究を進め、教室環境づくりを徹底する。</p> <p>⑥ICTなどの教育機器を積極的に活用した授業について研究を深める。</p> <p>⑦小中の一貫した人権教育の視点に立った授業づくり等の研修を実施していく。</p> <p>⑧小中一貫教育推進事業として小中教科別部会を実施し、9年間の指導方法等の研究(教科で付けさせたい力、カリキュラム、授業スタンダードに基づく授業スタイル)を行う。</p>	<p>【研修】</p> <p>□「授業づくりスタンダード」に基づき、生徒の主体的・対話的で深い学びにつながる授業への転換を図った。</p> <p>□研究協議付きの学年別授業研究会、外部講師を招聘した全体での授業研修会、全教員が行う公開研究授業等を実施し、授業改善を図った。</p> <p>□新学習指導要領の内容について、教科会を中心に理解を深めた。次年度から小学校では本格実施、中学校は次々年度からと迫っており、その移行に向けての取組や準備を行った。</p> <p>□三重県の一山田中学校(先進校視察)の研究発表に2回視察(計8名)に行き、視察内容を校内研修棟で全教員で共有するとともに、授業改善に活かした。</p> <p>□人権教育部を中心に研修研究を進め、教室のユニバーサルデザインの徹底を図った。</p> <p>□ICTなどの教育機器が活用できるよう、環境整備(スクリーンや遮光カーテン等の修理等含む)を進めた。</p> <p>□市から配備された教師用のタブレットの活用し、ICT機器利用による授業改善を図った。</p> <p>□将来を展望できる生徒の育成に資するため、アントレプレナーシップの講師を招聘しての教職員研修を行い、キャリア教育に対する教職員の資質向上を図った。</p> <p>□小中一貫教育推進事業の一環として、小中合同の教科会では授業づくりや指導方法の研究を推進し、小中合同授業研究会も実施した。また小中合同の教科部会において、9年間を見通したカリキュラムや指導方法の統一、ユニバーサルデザインに配慮した指導方法等に関して研究を推進した。</p> <p>□発達症に係る講師を招聘しての研修を行い、特別の配慮を要する生徒や支援が必要な生徒に対する指導方法や接し方に関する教職員の見識を高めた。</p>
もに学び、ともに育つ教育の充実	特別支援教育	<p>【安心して学べる学校環境】</p> <p>1. 安全で規律ある雰囲気(学校・学年・学級)</p> <p>2. 学ぶ意欲を引き出す教室環境</p> <p>3. ホット安心できる居場所のある学校</p>	<p>【支援教育】</p> <p>①障害のある生徒の保護者の意向を受け止め、十分な配慮のもと支援教育の取組みを推進する。</p> <p>②インクルーシブ教育の理念を踏まえ、「ともに学び、ともに育つ」という観点から集団づくりの一層の充実等を図りつつ、かつ一人ひとりの生きる力を最大限に伸ばすために、個に応じた指導を充実させる。</p> <p>③支援学級担任、特別支援教育コーディネーターを中心とした全校的な支援体制のもと教育活動を推進する。</p> <p>④教育支援計画及び指導計画の作成と指導方法の研究を深めるとともに支援教育の一層の推進に努める。</p> <p>⑤通常の学級に在籍する配慮を要する生徒について、全教職員で共通理解を図り、きめ細かな支援を行う。</p> <p>⑥ユニバーサルデザインに配慮した学習指導のあり方について研究を深める。</p> <p>⑦障害者への正しい理解と認識を深めるため、障がい者理解教育を系統的に実施し、生徒の人権意識の高揚を図る。</p> <p>⑧発達症に関する研究研修を進め、特に通常学級に在籍する特別な支援を要する生徒への適切な指導方法を研究・確立する。</p>	<p>【支援教育】</p> <p>□支援教育コーディネーターを中心として支援委員会を定期的に行い、支援学級在籍生徒及び通常学級に在籍する特別な配慮を要する生徒について、保護者の意向等の情報を共有しつつ、生徒個々の特性に応じた適切な指導や接し方ができるよう取り組んだ。</p> <p>□支援教育コーディネーターや学級担任により、保護者との連携を密に行った。</p> <p>□発達症に係る講師を招聘しての研修を行い、特別の配慮を要する生徒や支援が必要な生徒に対する指導方法や接し方に関する教職員の見識を高めた。</p> <p>□学級活動や学年行事、学校行事など、インクルーシブ教育の理念を踏まえ、ともに活動や学習ができるよう努めた。</p> <p>□支援学級在籍生徒には、肢体不自由児助員とも連携しながら、個に応じた指導を行った。</p> <p>□教室のユニバーサルデザインについて継続して研究し実践した。</p> <p>□校内研修を行い、障害者理解教育を推進した。</p> <p>□生徒に対しては、道徳教育や人権教育の取組を中心として、学校教育のあらゆる場面を通じて、障がい者に対する理解を図った。</p>

<p>地域とともにある学校づくりの推進</p>	<p>保護者・地域住民との連携</p>	<p>【ともに育つ地域・校種間連携】 1. 多様な資源を生かした地域連携 2. 明確な目的をもった小中一貫</p> <p>【双方向的な家庭とのかかわり】 1. 家庭とのパートナーシップの推進 2. 学習習慣や基本的生活習慣の形成を促す働きかけ</p>	<p>【家庭・地域との連携】 ①相互理解を深め、それぞれの教育力を高めあうように努める。そのため、学校評議員制度、PTA、山田中学校区青少年育成地域協議会の役員等より広くニーズを把握し、学校運営に役立てる。 ②山田中学校区青少年育成地域協議会やPTA、校区コミュニティ等が実施する事業に積極的に参加することを通し、子どもたちが地域を愛する心やボランティア精神を育む。そのため「山田ふれあいタウン」をその中心的なイベントとして位置づけ、その充実を図る。 ③土曜授業を活用して授業参観やオープンスクールを行い、家庭・地域との連携を深める。 ④生徒が地域の一員としての自覚を高めるための地域防災を中心に据えた地域と学校が協働して行う防災訓練の実施に向けて地域の気運の高めるとともに計画等を立案する。</p> <p>◆学校情報の積極的公開 ①学校だよりの発行と地域への回覧 ②ホームページの更新</p> <p>◆PTA・地域協議会等との連携充実 ①山田ふれあいタウンの実施と内容の充実を図る。 ②土曜授業実施に伴う協力依頼</p> <p>【学校教育自己診断 保護者】⇒肯定的回答の割合 ◆学校は保護者・地域の願いに応えようと努力している ⇒80%以上 (H30: 74%) ◆学校は家庭への連絡や意思疎通を積極的にきめ細かく行っている ⇒85%以上 (H30: 78%) ◆学校は保護者が授業を参観する機会(オープンスクール)を良く行っている ⇒95%以上 (H30: 96%) ◆学校は保護者や地域の人たちと話をする機会を多く設けている ⇒80%以上 (H30: 72%)</p>	<p>【家庭・地域との連携】 □保護者、地域から理解と協力を得るために、催し物や会議など地域に積極的に出向き、意見交換をする機会をつくった。また生徒が地域に目を向けるようにするため、学校と地域の共同の防災訓練等について地域の方に呼びかけを行った。 □学校評議員からご意見をいただき、学校教育自己診断の分析結果を活用し、家庭や地域の意見を反映させる手段とした。 □山田中学校区青少年育成地域協議会主催の「山田ふれあいタウン」を11月30日(土)に実施した。今年度から生徒による出店や体育館でのステージ等新しい企画を盛り込み、中学生の参加は格段に多くなった。 □土曜授業では、中学生とコミュニティの自主防災・福祉委員の方との共同防災訓練の開催を図ったが、日程の調整等がつかず実施できなかったため、オープンスクールと授業参観のみに終わった。 □学校だより「山中だより」を校区コミュニティの協力をいただき回覧していただいた。(交北校区コミュニティは、途中からコミュニティ会議に出席されている方に破風に変更。) □学校のホームページの更新は随時行うことができた。しかし各クラブのページは更新することができなかった。</p> <p>【学校教育自己診断 保護者調査】※数値は肯定的回答の割合 ◆学校は保護者・地域の願いに応えようと努力している 目標：80%以上 (H30: 74%) ⇒結果：78% ▼2% (昨年度比: △4%) ◆学校は家庭への連絡や意思疎通を積極的にきめ細かく行っている 目標：85%以上 (H30: 78%) ⇒結果：77% ▼8% (昨年度比: ▼1%) ◆学校は保護者が授業を参観する機会(オープンスクール)を良く行っている 目標：95%以上 (H30: 96%) ⇒結果：92% ▼3% (昨年度比: ▼4%) ◆学校は保護者や地域の人たちと話をする機会を多く設けている 目標：80%以上 (H30: 72%) ⇒結果：67% ▼13% (昨年度比: ▼5%)</p>
<p>学びのセーフティネットの構築</p>	<p>生徒指導・安全教育</p>	<p>【豊かなつながりを生み出す生徒指導】 1. 一致した方針のもとでのきめ細かな指導 2. 子どもをエンパワーする集団づくり</p> <p>【力みなぎる自治活動】 1. 活発な生徒会活動 2. 活動的な部活動 3. 様々なボランティア活動</p>	<p>【生徒指導】 ①生徒指導上の諸問題に対応するため、学校が一体となって取り組む生徒指導体制の確立を図るとともに、常に率先垂範の気持と行動力を持って、全教職員がチームとして生徒支援を行う。 ②人間関係など日常で体験する様々な困難を上手に乗り越えるために必要なコミュニケーションスキルや感情コントロールスキル等のライフスキル教育を系統的・計画的に行い、生徒の自尊感情を育くむ。 ③校区共通の人権教育に係る研究テーマ『一人ひとりが大切にされ、つながり・学び合い、確かな力を育む学びの創造』の深化をめざす取組みを積極的に行い、校区で策定した「集団づくりスタンダード」「授業づくりスタンダード」をもとに、心のふれあいが大切にされた、規律ある学級集団・学年集団を育成する。 ④「いじめ防止基本方針」を踏まえ、「いじめ」を重大な人権問題として捉え、「いじめは絶対に許さない」の共通認識を持ち、未然防止・早期解決に努める。 ⑤個々の生徒や家庭の状況の観察・把握に努め、虐待の早期発見と速やかな通告及び関係機関との継続的な連携の強化に努める。 ⑥カウンセリングマインドで「心のふれあう学級・学年・学校づくり」を推進し不登校を出さない学級・学校づくりに努める。 ⑦携帯電話等の危険性を認識させ、情報モラルを身につけさせる指導を行う。また、携帯電話等でのSNSや無料通話アプリ等を介しネット上の犯罪に巻き込まれないよう、家庭や関係機関等と連携した取組みを行う。 ⑧自主的、自律・自立的な特別活動及び部活動の充実につとめる。 ⑨保護者・地域・関係諸機関との連携を強め、生徒に基本的生活習慣を身につけさせるために、子ども観や指導観の相互理解につとめ、市民の信託に応える総合的な取組みを行う。 ⑩発達症に関する研修・研究を進展させ、発達の課題を抱えた生徒への対応方法を全教職員が身につけることにより、生徒一人ひとりの特質を捉えた効果的な生徒指導が実施できるようにする。</p> <p>【学校教育自己診断 生徒調査】⇒肯定的回答割合の目標値 ◆学校に行くのが楽しい ⇒80%以上 (H30: 69%) ◆きまりやマナーを守るなど、生徒指導に力を入れている ⇒80%以上 (H30: 72%) ◆体育祭・文化祭など学校行事はみんなが楽しく行えている ⇒90%以上 (H30: 88%) ◆担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる ⇒70%以上 (H30: 62%) ◆先生はわたしたちの意見や考えを大切にしてくれる ⇒85%以上 (H30: 76%)</p> <p>【学校教育自己診断 保護者調査】⇒肯定的回答の割合 ◆生徒指導の方針に共感できる ⇒80%以上 (H30: 72%) ◆学校の雰囲気がよく、子どもたちは生き生きしている ⇒90%以上 (H30: 81%) ◆学校はいじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる ⇒90%以上 (H30: 79%) ◆学校は、子どもの生命を大切にすることや社会のルールを守る態度を育てようとしている ⇒90%以上 (H30: 80%) ◆先生は子どもの意見や考えを大切にしている ⇒90%以上 (H30: 79%) ◆先生は子どもをよく理解している ⇒85%以上 (H30: 74%)</p>	<p>【生徒指導】 □生徒指導主事を核とし、学年生徒担当が中心となって、学年全体が組織的・機能的に指導・対応できた。また学年をまたがっての日常的な情報共有や連携した指導・支援等がスムーズに行えた。 □職員会議や生徒指導部会で全教職員による情報の共有を図り対応した。 □様々な発達症を抱える生徒に対して、それぞれの特性に応じた対応策や指導方法を取り、個に応じた指導の徹底を図った。 □発達症に関する外部講師を招聘しての校内研修を実施し、発達症に対する見識を深めた。 □校区の小中学校が連携した生徒指導体制が取れるよう、「チャイム着席」など共通の授業規律や情報交換を常に行った。 □中学校の教員等が小学校に授業時の児童の様子の観察等に学期に数回出向き、児童の様子をつかむとともに、小学校と様々な情報の共有を図った。 □学期毎のいじめアンケートをもとにいじめの早期発見に努めた。また、未然防止として校内巡回や休み時間にも生徒の近くに教員がいるなどして、情報収集と相談体制を維持した。 □スクールカウンセラーを中心に心のケアや個別の対応をより丁寧に行うとともに、医療機関や福祉機関を含めた外部機関との連携図り、特に虐待や複雑な家庭の状況に絡む部分での連携を強化した。 □必要に応じて子ども総合相談センターや中央子ども家庭センター、警察関係機関等の外部機関と連携し、幅広い対応ができるように図った。 □学級活動や学年活動、生徒会活動等を中心に生徒の自主性を意識した行事を行うことで、達成感や満足感を感じるにより、自己肯定感の高揚に取り組んだ。 □生徒や保護者を対象とした外部講師を招聘した情報モラルの講演会を行い、生徒の身近なスマホの使用やSNSの危険性など認識の向上に努めた。また、新入生入学説明会で保護者向けに外部講師を招聘した情報モラル研修を行い、中学校入学時に子供に向けてスマホを購入する保護者の意識向上も図った。 □校区生徒指導連絡会を行い、地域とも情報交換を密にした。</p> <p>【学校教育自己診断 生徒調査】⇒肯定的回答の割合 ◆学校に行くのが楽しい 目標：80%以上 (H30: 69%) ⇒結果：82% △2% (昨年度比: △13%) ◆学校は、きまりやマナーを守るなど、生徒指導に力を入れている 目標：80%以上 (H30: 72%) ⇒結果：82% △2% (昨年度比: △10%) ◆体育祭・文化祭など学校行事はみんなが楽しく行えている 目標：90%以上 (H30: 88%) ⇒結果：88% ▼2% (昨年度比: ±0%) ◆担任の先生以外にも気軽に相談することができる先生がいる 目標：70%以上 (H30: 62%) ⇒結果：66% ▼4% (昨年度比: △4%) ◆先生はわたしたちの意見や考えを大切にしてくれる 目標：85%以上 (H30: 76%) ⇒結果：84% ▼1% (昨年度比: △8%)</p> <p>【学校教育自己診断 保護者調査】⇒肯定的回答の割合 ◆生徒指導の方針に共感できる 目標：80%以上 (H30: 72%) ⇒結果：77% ▼3% (昨年度比: △5%) ◆学校の雰囲気がよく、子どもたちは生き生きしている 目標：90%以上 (H30: 81%) ⇒結果：86% ▼4% (昨年度比: △5%) ◆学校はいじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる 目標：90%以上 (H30: 79%) ⇒結果：78% ▼12% (昨年度比: ▼1%) ◆学校は、子どもの生命を大切にすることや社会のルールを守る態度を育てようとしている 目標：90%以上 (H30: 80%) ⇒結果：78% ▼12% (昨年度比: ▼2%) ◆先生は子どもの意見や考えを大切にしている 目標：90%以上 (H30: 79%) ⇒結果：86% ▼4% (昨年度比: △7%) ◆先生は子どもをよく理解している 目標：85%以上 (H30: 74%) ⇒結果：79% ▼6% (昨年度比: △5%)</p>

4. 学校教育自己診断の実施状況

学校教育自己診断の結果と分析

- ①実施時期〔令和元年12月〕
 ②対象〔生徒・保護者・地域・教職員〕
 ③結果から特記すべき事項と分析

人工知能の急速な発達、少子高齢化による労働人口の割合減少等による急速な社会形態の変化により、今の子どもたちが社会に出るころに必要とされる力は、かなり変化していると考えられる。基本となる人権意識においてもAIや医学の進展に合わせて、より複雑に高度化したものが必要となり、外国の方の文化や考え方への柔軟な理解力や協調性、様々な場面における日本社会全体の許容性の高さ等も必要となる。また労働面で必要な人材として、高い主体性、創造力、コミュニケーション力を伴った協調性、粘り強さ等々が今以上に強く求められると想像している。本年度から本校では、前述のこれからの時代を生きる子どもたちに必要となる様々な力の一番基礎となるものは「主体性」であると捉え、「してもらう させられる人から する人へ」をキャッチフレーズに学校の教育活動の様々な場面で主体性を引き出せる取組みを開始または準備・研究している。さらに学習指導・生徒指導を2本柱とし「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して授業改善等の教育活動も進めている。

学校教育自己診断では、生徒調査で1つの項目が昨年度比で同率であったのを除き、すべての項目で肯定的回答の率が上昇した。人は、してもらったりさせられたりしていると心が動きにくくなる。しかし主体的に自ら考え行動すると、大きく心が動き感動する。「主体的にする」というたった一つの心の持ち方の変化で、例え同じ結果であったとしても、そこから得られるものは全く違った価値を持つ。次年度からも学習指導・生徒指導を2本柱として、さらに授業改善や取組の改善を進め、学校の教育活動のすべての場面を活用して子どもたちの心に「主体性」を育てたい。

○**学校生活、生徒指導等に関する項目**：生徒調査は、学校行事に係る1つの項目以外、すべての項目で肯定的な回答の割合が昨年度の数値を上回った。特に6つの項目では10%以上の上昇がみられた。生徒が学校生活や学校行事に対して主体的に参加し、教職員との関係も「してもらう」のではなく「する」の姿勢を持ち出したことがこの結果に繋がったと判断している。一方、保護者調査では4つの項目で数値が低下した。それ以外の9つの項目は1~7%上昇した。生徒調査のうち「図書室をよく利用している」の肯定的回答は28%と極めて低く、読書に大きな課題がある。スマホの使い方を考えさせたり、市の行事と学校の朝の読書活動を連動させるなど、読書に関しての取組を進めたい。また「生徒会活動に関心を持ち積極的に参加している」の項目も57%と高くはないことから、生徒一人ひとりが生徒会活動にさらに主体的に考えて取り組んでいく姿勢を育てたい。その姿勢が、如何にこれからの社会に必要な姿勢であるかを子どもたちが自ら理解するように努めたい。**保護者調査**は、昨年度と大きな数値の変化は見られなかった。その中で「学校では特色のある教育活動が行われている」の項目が低いことから、「山田ふれあいタウン」をさらに発展させることにより生徒と地域や保護者の方とのつながりを深めるものにし、最近注目度が上がっている地域防災における自主防災の方や福祉委員、保護者の方と中学生が、ともに訓練する場を設定するなどし、生徒の自己有用感を高めるとともに、地域社会に目を向けられる大人を育成することにつながる取組などを行っていききたい。

○**学習指導に関する項目**：生徒調査は、すべての項目で肯定的回答の割合が前年度を上回った。「ICT機器を使った授業はわかりやすい(+13%)」「落ち着いた雰囲気での授業が受けられる(+9%)」「授業がよくわかる(+8%)」等も比較的高い伸びがあり、グループ学習の取組等の教職員の技術向上や子どもたちへの定着が功を奏したものと考えられる。**保護者調査**では「先生はわかりやすい授業づくりに努力している(+10%)」と高い伸びがあった。これは生徒調査の「授業がよくわかる」に通じるものがあると考えられる。「子どもは家で自分で計画を立てて勉強している」の項目は肯定的回答率50%と低い。家庭学習の定着は難しい課題ではあるが方策を考え、取組を進めたい。

5. 学校評議員制度及び学校関係者評価委員会等の運用状況

学校評議員及び保護者等からの意見内容等

<日時 令和元年4月~12月> 協議会形式 個別
 ○氏名 河野嘉清、畑中光昭、松島優美（PTA会長）、田代志保（山田中学校区青少年育成地域協議会会長）

- 意見を求めた事項
 ・校区コミュニティと生徒の協働の防災訓練の実施に向けた取組に関して
 ・学校経営・運営に関すること全般
 ・山田中学校区青少年育成地域協議会主催の行事「山田ふれあいタウン」への中学生の参加率向上のための方策。

- 意見の概要
 ・地域での生徒の状況は、事件等もなく落ち着いている。
 ・小学校区でのコミュニティの様々な行事や防災訓練等の関係で日程的に実施困難。危機管理室によると2次避難所となっている中学校は実際には避難所と想定されていないために中学校での実施については考慮が必要。
 ・「ふれあいタウン」への生徒参加（出店）や舞台発表等の企画。次年度からの「ふれあいタウン」の実施方法の根本的見直し。

<日時 令和2年3月5日> 協議会形式 個別
 ○出席評議員氏名 河野嘉清、畑中光昭

- 意見を求めた事項
 ・学校経営・運営に関すること全般
 ・山田中学校区青少年育成地域協議会主催の行事「山田ふれあいタウン」の実施方法の見直し

- 意見の概要
 ・地域と学校のつながりについて。
 ・地域防災について
 ・「山田ふれあいタウン」と「防災訓練」の同時開催の方法等について
 ・学校評議員会の在り方（小学校での学校運営協議会での論議が市の教育政策や学校予算・人事等に反映されるのか等）

6. 次年度に向けて

項目	・内容	○改善方策
教育課程 ・ 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> すべての子どもの学びを支える学習指導 新学習指導要領への移行準備 新学習指導要領に係る評価規準・基準及び評価方法の見直し。 主体性を高めるための授業の形態の追求。 主体性を高めるための総合学習の見直し。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的・対話的で深い学びの実現にむけた授業改善 ○グループを活用し、つながり、学び合える授業づくり ○保護者と連携した家庭学習 ○主体性を高めるため、答えが一つでない課題について生徒が自分で考え、論議し、まとめる活動を作り出せるグループ活動及び題材の研究。 (総合学習と教科学習において関連する学習内容のタイアップによる課題設定およびグループ学習方法の研究)
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かなつながりを生み出す生徒指導 ・発達症の理解とそれを基準とした生徒保護者対応方法の研究 ・不登校生徒の効果的取組の研究 	<ul style="list-style-type: none"> ○個別の課題に応じた生徒指導 ○小中学校で連携した規律づくり ○不登校生徒への対応の充実（校内適応指導教室の効果的な活用）
保護者 地域 住民との 連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地域とともにある学校づくり ・中学校と地域コミュニティや自主防災会との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○市の土曜授業廃止に伴う土曜参観日の設定。 ○山田中学校区青少年育成地域協議会主催の行事「山田ふれあいタウン」の実施方法の見直し。 ○生徒の地域行事への積極的参加推進
道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> ・評価方法のさらなる研究 ・教職員全体（担任外を含む）の指導力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳の授業における指導力の向上と教材研究及び改善 ○適切な評価にむけてのさらなる研修の実施。 ○必要に応じての評価方法の見直し ○担任外教員の授業実施の検討

■添付資料■

学校評価結果の公表資料（保護者や地域等に公表した資料）